九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 **No.370**

2022（令和4）年1月24日（月）発行

若い人は希望です！◇環境活動家グレタさんをはじめ、日本の中・高校生も「核兵器禁止条約批准」の署名活動を展開中です。福島市の福島成蹊高校1年西田小春さん（16）は、冤罪事件の「松川事件」を戯曲『いつの日にかの約束を』に書いて、昨年松川賞を受賞しています。

見つかった父の「戦死公報」

福島市 渡部幸一（小高区出身・80歳・本会会員）

私の戦争体験 41

父は24歳で戦死 私は3歳でした

つい最近、私の母が残しておいた父の「戦死公報」が見つかりました。原本はガリ版刷りのものですが、とても私には読めませんでしたので、歴教協の方に現代語訳をしてもらい、また、父が属していた部隊がどういう任務を持っていたかも調べていただきました。

「公報」には戦死した場所が明確には書いてありませんが、戦後父の戦友から直に聞いた話では、「７隻の貨物船で移動中、米軍の飛行機に爆撃され、４隻がやられた。私はやられない方に乗っていたので、こうして帰れた」と話していました。

両親の結婚式の写真。渡部さんは赤ちゃんの時、出征したお父様と一度面会。それが唯一の"親子らしいこと"と話されています。

「父ちゃん」を一度も使ったことがない

父は1920（大正9）年福島県行方郡塚原村（※謄本のまま 現・南相馬市小高区）生まれ。兄弟7人中の三男。（いわき市）四倉で船大工どして働いていた。1940（昭和15）年母と結婚、相馬郡金房村大富に婿入り。まもなく赤紙が来て出征。

私は1941（昭和16）年に生まれましたが、父（渡部 豊）は1944（昭和19）年に戦死。享年24歳で、私は3歳でした。父がまだ仙台の部隊にいた時、赤子の私と面会したそうですが、生涯で"親子らしいこと"をしたのはそれが唯一です。だから私は生まれてこの方、「父ちゃん」とか「お父さん」「おやじ」というコトバを一度も使ったことがないのです。

男手のない農家がどんなに大変だったか、私はよくわかります。当時、男はほとんど兵隊に取られ、再婚すらできず、母は死ぬまで寡婦でした。祖父や祖母がいたから何とか一人前にしてもらいましたが、戦争なんてとんでもないことです。日本が仕掛けた戦争で、日本人300万人超戦死、原爆二発も落とされるし、アジア諸国では2000万人も・・。

「国民の生命と財産を守るために軍隊は必要。そのために（武器は持たない、戦争はしない）憲法9条を（できる様に）変える」と安倍元総理を先頭に言っていますが、この「戦死公報」を読むと、いかにそれがウソかがよくわかります。来年、「明文改憲」（国民投票）を参院選と同時投票でやろう、と非常に危険な状況です。

「戦死公報」を子どもたちに伝えたい

自分で言うのも何ですが、この「戦死公報」は非常に貴重な資料だと思いますので、今、教室にいる子どもたちにしっかりと伝えていかなければ・・・と思います。また、各分野で活用されることを希望します。それが私の父や同じ様に無念の死を遂げた方々への最大の供養になると思い、皆様にお送りしています。

〈渡部豊さんの戦死公報〉

金房村受付印（昭20.6.17.）
市町村長經由 福聯公第三九號

戰歿者内報

本籍地 福島縣相馬郡金房村大字大富
陸軍 兵長 渡部 豊
右者南方方面ニ於テ昭和十九年八月二十四日 戰死 セル旨通牒アリタルニ付内報ス
茲ニ生前ノ勲功ニ對シ深甚ナル敬意ヲ表シ併セテ敬弔ノ誠ヲ捧ぐ
昭和二十年六月十二日
福島聯隊區司令官 一色留次郎
留守憚當者
渡部ヨシノ殿

○本会では会発足時から、会員さんの「戦争体験」を収集し会報に掲載してきました。この渡部幸一さんの「戦争体験」で41回（人）目です。戦争を知る世代が少なくなっていますが、「戦争体験」をお寄せください。

<表ページの続き>

見つかった父渡部豊さんの「戦死公報」

原文は文語体で難解です。<現代語訳>されたものを掲載します。

戦局はますます激しさを極め、我が国家にかつてない重大な局面になっているこの時期、貴方の家では皆様ますますお元気で健やかに生活されていることと思っております。さて当隊の将兵一同志気は極めて高く、醜い敵アメリカ・イギリスを攻め滅ぼすための任務に一生懸命立ち向かっています。

ところで御子息の豊殿は作戦で出動してからたいへん元気で責任感は極めて高く、懸命に敵を倒すべく闘っていたところで、昭和十九年八月二十四日七時頃不幸にして敵弾のため、惜しくも大東亜共栄圏が永遠に成り立つための礎石となるべく戦死し、天皇を守るための盾の役割をはたすといういつまでも変らぬ忠義につくすという生涯は、兵士のあるべき願いとはいえ、ご家族の皆様のお嘆きはいかばかりと謹んでお悔やみを表します。

帝国軍が（ガダルカナル）島からの撤退以来、おごり高ぶった敵アメリカ・イギリスは物量を頼みに生意気にも反攻の勢いを増して、「サイパン」島、硫黄島へと侵攻してきて、ついに本土の一角である西南諸島沖縄にその泥足を踏み込んできましたが、闘いの一進一退は戦場では常に起ることでなにも心配すること無く、天皇を守るために命を捧げた御子息の御冥福を祈っていただくことこそ、この上ないご供養になると思います。

当隊の将兵一同は亡くなった豊殿の冥福を祈り、憎んでもあまりある敵を討ち滅ぼすことこそ霊前に手向けるたった一つの供養と思い、日夜の作戦に一致して懸命に闘っています。

同封の香典、額はささやかですが戦友一同の心ばかりのお供えとしてよろしくお取りはからい下さいますようお願いします。

末筆になりますが、御遺族の皆様の御健康を陰ながらお祈り致します。

暁第一六七五七部隊鹿住隊長鹿住佐武郎外将兵一同

○以上が渡部幸一さんの「戦争体験」41です。ご意見など事務局へお寄せください。また、会員の皆さまの「戦争体験」をお待ちしています。記録に残し、次の世代に戦争の愚かさを伝えましょう。

本土復帰から50年　沖縄のこと、辺野古のこと

今年5月15日で沖縄の日本復帰から５０年です。沖縄の過酷な歴史や基地について、沖縄で起っていることなど福島との共通点も多いようです。

≪人口≫2021年
沖縄県　146万9千人(全国の1.2%)
全国　1億2360万人

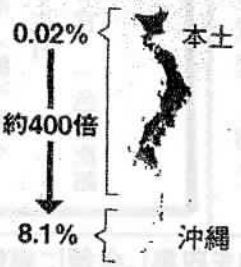
≪面積≫
沖縄県　2,281㎢(全国の0.6%)
全国　377,974㎢

≪平均収入≫
沖縄県374万円
全国　487万円
(全国平均の8割)

・出生率1.86で全国一　・大学等進学率は全国最下位39%
・米軍統治下で輸入型経済になり、製造業が育たず低収入になっている。

≪米軍施設≫

面積に占める米軍施設の割合
2021年3月31日時点



基地負担割合

	本土	沖縄
1972年	41%	59%
2020年	30	70

≪辺野古基地問題≫

■1995年の沖縄米兵の少女暴行事件を契機に、宜野湾市の普天間基地の返還要求運動が起こる。紆余曲折を経て県外移設は不可能と名護市辺野古に移設が決まる。■しかし辺野古は、海洋埋め立てでサンゴ礁破壊や軟弱地盤の問題、埋め立てに戦没者遺骨を含む土砂を使用する非人道的蛮行など、米国の顔色をうかがい、沖縄を見下して反対運動を全く無視する国や政府の態度に、反対デモに参加されてきた会員さんもいます。■基地の沖縄も原発事故の福島も身勝手な国策に翻弄され続けてきた地域で、無関心ではおれません。